

Petit Journey pick up

子育ての合間にひと息ついて
あなたのための時間を過ごしませんか？
映画や音楽の世界へ、しばしの旅のあとはまた、
子どもと一緒に時間を満喫できるはず！



「モンサントの 不自然な食べ物」

遺伝子組み換え作物(GMO)の世界シェア90%以上を誇る巨大多国籍企業「モンサント社」には「黒い噂」が。その真偽を確かめるために取材を重ねると、驚くべき事実が……。『食』、ひいては『いのち』をめぐる世界の構造を暴く、注目のドキュメンタリー。レイチェル・カーソン賞(ノルウェー)、ドイツ環境メディア賞受賞。
監督…マリー＝モニク・ロバン／配給…アップリンク／9月1日(土)より渋谷アップリンクほか全国順次ロードショーのほか、自主上映会なども
<http://www.uplink.co.jp/monsanto/>

の民にはまっているのです。農業のせいでがんになった叔父もいますが、現在は、有機農業に転向を試みています」

オーガニックを 選択することも大きな力に

インターネットの検索というきっかけから、全世界に大きな影響を与える「真実」にたどり着いたロバン監督。この真実を知ったわたしたちに、できることは？「オーガニック農産物を選ぶことや、遺伝子組み換えの歴史とモンサントの一世紀に及ぶ犯罪行為をひとつひとつに知らしめることではないでしょうか」

フランスのように、政府に遺伝子組み換え作物の栽培禁止を求めることもできそうですね！

「いろいろなドキュメント映画をつくる過程で、いつもモンサント社の名前に行き当たっていたので、気にはなっていた。ある日、インターネットでキーワード検索していくうちに……」と取材の経緯を語るのは、「モンサントの不自然な食べ物」のマリー＝モニク・ロバン監督。農業大国フランスで150万人以上が鑑賞し、多くの政治家もこの作品を観たことで、フランスでは遺伝子組み換え作物(GMO)の栽培禁止に至ったという。

「食べ物」と「いのち」が 支配された社会

遺伝子組み換え作物(GMO)の世界シェア90%を誇り、あらゆる種子会社の買収をくり返し、成長し続ける巨大アグロバイオ企業「モンサント社」。化学薬品会社から転向し、ベトナム戦争時には枯葉剤を、現在は遺伝子組み換え作物を安全性が不透明なまま世界中に販売し、莫大な利益を上げています。

ロバン監督は、わたしたちの「食べ物」や「いのち」そのものを支配し、利益のみを追求する経済構造の実態に迫ります。

「わたしの家族は農家。この映画を見た父は、ショックで心筋梗塞を起こしたほど。農家は、モンサント



マリー＝モニク・ロバン 1960年、フランスの農家に生まれる。フリージャーナリストとして臓器売買、戦時暴力などをテーマに取材を重ね、世界中を飛びまわる。現在、3.11以降の福島をテーマにした作品と、世界のオルタナティブ農家を追った作品を制作中。

わたしたちの食べものを守るために、 いま、できること。

「遺伝子組み換え原料は不使用」……わたしたちの日常で、よく目にするこの表現ですが、そもそも「遺伝子組み換え作物」の裏側にあるものとは……？
知らないうちに作物のいのちが操作され、それを体内に取り込まされているこの社会の「真実」に迫ったジャーナリストでドキュメンタリー映像作家のマリー＝モニク・ロバンさんにお話を伺いました。

お話*マリー＝モニク・ロバンさん(ジャーナリスト・ドキュメンタリー映像作家)

取材・文*金涼子 写真*泉山美代子